

令和 6 年度 事業報告書

自 令和 6 年 4 月 1 日

至 令和 7 年 3 月 31 日

事業概況

令和 6 年度の世界情勢は、ロシアによるウクライナ侵略の長期化や中東地域の紛争等の不安定な状況が続き、また米国で誕生したトランプ政権の政策を含め、世界各国の保護主義が台頭し、国際協調が後退するなど、政治、経済面での混乱が続きました。

我が国では 10 月の衆議院選挙において与党が過半数割れとなり、さまざまな課題について与野党間における話し合いによる政治がスタートしました。経済面では昨年 3 月にマイナス金利の解除以降コロナ禍の治まりも加わり、企業投資に回復が見え、33 年振りに大幅な賃上げが行われたことから個人消費が上昇し、名目 GDP が初めて 600 兆円を超える等、緩やかな景気回復基調にありました。しかしながら目まぐるしく変動する世界情勢の動向には目が離せない状況となっています。

航空輸送については、コロナ禍前を上回る訪日外国人の勢いもあって国際線を中心に人の動きや物流が活発さを取り戻す一方で人手不足の課題等コロナ禍後の対処に迫られる年となりました。

このような中で、当協会としては精力的に各事業に取り組みました。

まずガバナンスコードの理念に則り、基本事項を定める「コンプライアンス規程」を年度当初に制定し、社会的信用の向上を図る体制の構築に努めました。

文化事業分野においては、4 回の定例講演会に対面とオンラインで約 1,600 名の参加をいただきました。航空図書館も来館者がコロナ前の水準に戻りました。航空遺産継承事業では「重要航空遺産」の選定や保全活動を積極的に進めることができました。

航空スポーツ分野では、多くの競技会やイベントが多数の参加を得て盛況に行われました。

当協会が受託している「国際線発着調整事務局業務」「空の日実行委員会」「全国地域航空システム推進協議会」などの事務局業務についても適切に実施し付託に応えました。

各事業の財政基盤でもある航空会館は、老朽化した外壁面等の大規模修繕や省エネの全館 LED 化を実施するなど適切に維持管理しつつ、予算を超える事業収入を確保しました。

各事業の詳細は後頁の通りとなりますので、ご参照願います。

第 1 庶 務 事 項

I. 会議

1. 評議員会

第21回評議員会を6月20日に開催し、令和5年度の決算及び評議員、理事の選任について承認可決した。

2. 理事会

第47回理事会を5月23日に開催し、令和5年度事業報告並びに決算（貸借対照表、正味財産増減計算書、並びに同付属明細書）、令和5年度公益目的支出計画実施報告書、評議員会の招集、顧問の選任について承認可決した。

第 48 回理事会を書面開催し、第 21 回評議員会において二川直人氏が理事へ選任された場合、二川直人氏を常務理事に選定する件について、6 月 20 日に承認可決した。

第 49 回理事会を令和 7 年 3 月 19 日に開催し、令和 7 年度事業計画及び予算の承認、役員候補者選考委員会規程の制定、役員等賠償責任保険契約の締結（更新）について承認可決した。

3. 常任理事会

重要な案件について審議し、協会事業の確実な執行と監督を実施した。

第 1 回	令和6年 4月18日	各事業活動状況の報告。
第 2 回	令和6年 5月16日	第47回理事会付議・報告事項である令和5年度事業報告及び決算の件、令和5年度公益目的支出計画実施報告書の件、評議員会招集の件について承認。会長（代表理事）、副会長及び専務理事並びに常務理事（業務執行理事）の職務執行状況報告、評議員及び理事（補欠）の選任（案）の報告。各事業活動状況の報告。
第 3 回	令和6年 6月13日	各事業活動状況の報告。
第 4 回	令和6年 7月25日	各事業活動状況の報告。
第 5 回	令和6年 9月12日	各事業活動状況の報告。
第 6 回	令和6年10月17日	各事業活動状況、スポーツ団体ガバナンスコード対状況並びに航空会館防水・塗装工事の実施について報告。
第 7 回	令和6年11月21日	各事業活動状況の報告。
第 8 回	令和6年12月19日	各事業活動状況の報告。
第 9 回	令和7年 1月23日	各事業活動状況の報告。
第10回	令和7年 2月20日	役員候補者選考委員会規程制定承認。各事業活動状況の報告。
第11回	令和7年 3月13日	令和7年度事業計画及び予算（案）、第49回理事会資料（令和7年度事業計画及び予算、役員候補者選考委員会規程の制定、役員等賠償責任保険契約の締結(更新)について）の承認。 会長（代表理事）、副会長及び専務理事並びに常務理事（業務執行理事）の職務執行状況及び各事業活動状況の報告。

II. 役員人事

1. 理 事

令和 6 年 6 月 20 日 辞任 (2 名) 高津 良彦、山本ひとみ、
令和 6 年 6 月 20 日 就任 (3 名) 菅谷とも子、二川 直人、松尾亜紀子

2. 評議員

令和 6 年 6 月 20 日 退任 (1 名) 佐野 久
令和 6 年 6 月 20 日 就任 (2 名) 稲場 典康、屋敷 和子

3. 顧 問

令和 6 年 6 月 20 日 退任 (1 名) 江塚 春夫

III. 賛助員

平成 20 年に「公益法人制度改革関連法」が施行され、日本航空協会は平成 24 年 7 月 2 日に一般財団法人へと移行した。これを機に賛助員制度を設け、日本航空協会の事業に賛同する法人及び個人の方々へ賛助をお願いしている。なお、令和 5 年度より賛助員制度の強化、及び航空クラブの活性化を目的として、賛助員制度と航空クラブを統合することとし、これに伴い令和 5 年 4 月 1 日より賛助員制度を改定した。

令和 6 年度実績

法人賛助員 36 法人 (4 法人増)、196 口 (24 口増)

個人賛助員 60 名、60 口

法人賛助員は以下のとおり。

全日本空輸株式会社、日本航空株式会社、エアバス・ジャパン株式会社、空港施設株式会社、
双日株式会社、国光施設工業株式会社、株式会社ジャムコ、スカイマーク株式会社、
日本空港ビルデング株式会社、Peachi Aviation 株式会社、株式会社梓設計、
朝日航洋株式会社、株式会社シグマクシス、アイベックスエアラインズ株式会社、
アビコム・ジャパン株式会社、株式会社エアー・ジャパン、株式会社 A I R D O、
ANA ビジネスジェット株式会社、株式会社エージェンシー、兼松株式会社、
コミー株式会社、ジェットスター・ジャパン株式会社、新中央航空株式会社、
株式会社スターフライヤー、全日空商事株式会社、株式会社ソラシドエア、
損害保険ジャパン株式会社、航空会館 田中歯科、東京海上日動火災保険株式会社、
東京国際空港ターミナル株式会社、東邦航空株式会社、日本貨物航空株式会社、
株式会社日本空港コンサルタンツ、株式会社フジドリームエアラインズ、
株式会社 FLIGHT TIME、丸紅株式会社

(順不同)

第2 事業実績

I. 文化事業

1. 講演会

(1) 講演会の開催

昭和 58 年の開講以来、幅広い分野から講師を迎えて航空と宇宙に関する講演会を開催している。ハイブリット(対面・オンライン)での年度 4 回の開催は、テーマを「海外旅行」、「航空スポーツと航空史」、「宇宙と航空産業」、「カスタマーハラスメント」と、その時の話題に沿った内容をバランスよく設定した。総参加者数は 1,583 名(前年度比 68%増)となり、うち 2 回の講演会では、満席の参加申し込み者数に達した。特に第 4 回目の講演会時の初参加者数は、全体の 68.8% (平均 43.4%) となり、日本航空協会の認知度とプレゼンス向上に繋がった。

回／開催日	演 題 ・ 講 師	参加人数
第305回 4月19日	「アフターコロナの国際線トレンドを航空会社・運賃・サービス・マイルから考える」 航空・旅行アナリスト 鳥海 高太朗 氏	会場参加者数： 119人 オンライン ： 250人 アーカイブ視聴回数：201回
第306回 9月3日	『空の日・宇宙の日』記念特別講演会 ① 「小型月着陸実証機SLIMによる月面着陸について」 JAXA宇宙科学研究所宇宙飛翔工学研究系 教授 澤井 秀次郎 氏 ② 「エアバスA350で語る、最新の航空機システムの技術紹介」 (株) JAL エンジニアリング技術部システム技術室 エアバスグループグループ長 小 林圭二 氏	会場参加者数： 112人 オンライン ： 480人 アーカイブ視聴回数：336回 ※講演1のみ配信
第307回 11月15日	・講演：「航空スポーツをめぐる歴史の旅ー薬師寺から出土したイカロスの翼をめぐるー」 奈良大学文学部 教授 岩戸 晶子 氏 ・パネルディスカッション： 「近代の文化財の魅力や保存についての課題などについて」 奈良大学文学部 教授 岩戸 晶子 氏 航空遺産継承基金事務局専任部長 荻田 重賀 氏 東京文化財研究所 研究員 千葉 毅 氏	会場参加者数： 35人 オンライン ： 112人 アーカイブ視聴回数： 1374回
第308回 2月27日	・講演：「カスタマーハラスメントの基礎知識と実務対応のポイント」 成蹊大学法学部 教授 原 昌登 氏 ・パネルディスカッション： 「ANAグループ・JALグループ カスタマーハラスメントに対する取り組み」 成蹊大学法学部 教授 原 昌登 氏 日本航空(株) カスタマー・エクスペリエンス本部 CX推進部部長 上辻 理香 氏 全日本空輸(株) CX推進室CS推進部部長 宮下 佳子 氏	会場参加者数： 57人 オンライン ： 418人 アーカイブ視聴回数:64回 ※2025年3月25日現在 (2025年3月10日配信開始)

(注) 第305回は全国地域航空システム推進協議会の協力。第306回の『空の日・宇宙の日』記念特別講演会は日本航空宇宙学会、日本航空技術協会との共催。

2. 航空図書館

(1) 運営体制の強化と適切な蔵書管理

長期間改定がされていなかった図書館運営に係る規程（8件）を見直したことで、時代に即した健全な管理体制を確立した。配架場所不足の課題解決と利用者ニーズを踏まえた新規の規程作成により、約26,000冊が保管されている行田倉庫資料の閲覧に向けた館内準備と、利用者ニーズを反映した館内配架スペースの確保の捻出に繋がった。行田倉庫の整理と活用による新たな図書館サービス提供に向け、令和7年度の(公財)図書館振興財団助成金の申請を行ったが、最終選考で不採択となったため、次年度再度申請する。

また、通年業務を見直し（蔵書点検の実施時期）、その代替作業として、未整理状態が継続していたガバナー倉庫の整理にも着手した。これにより利用者の利便性を考慮したレイアウトの変更、閲覧資料の整理に向けた第一歩に繋がった。

(2) 利用者満足度の向上

- 資料受け入れ

新たな資料として国内航空会社の紙の時刻表（1970年頃～）の受け入れを行った。時刻表は国会図書館でも扱っていないため、利用者ニーズが高い資料であり大変好評を得ている。

- 企画展示

その時の話題に併せた館内展示を年度3回実施し、利用者から好評の声が多くあがった。実施した企画展示は次のとおり（「日本航空協会の変遷」、「フランスへのいざない」、「外国航空会社の時刻表紹介」）。

- 利用者アンケートの反映

利用者アンケート(n=110)を実施し、図書内容・蔵書量については、85.5%が満足（前年度比1.5%減）との回答を得た。一方で、開館日についての満足度は76.0%（前年度比2.7%増）で、土・日・祝日開館の声が挙がった。アンケートの結果を次年度図書館運営計画（閲覧希望資料、館内企画展示案、閲覧環境等）に反映することで、更なる満足度向上に繋げていく。

(3) 認知度向上

- 学生の取り組み

関東地区にある航空関係の専門学校へのリーフレット送付（140部）や、学生との交流機会の促進（戸板女子短期大学とのワークショップ、國學院大學図書サークルの学生との意見交換、各団体へのPR機会の促進）により、当館がターゲット層としている学生にアプローチ出来たことで、大学・短大・専門学生の来館者数は前年度比12.1%増となった。

- SNS

Xのフォロワー数は、前年度比45.3%増と大幅な伸び率となった。興味をひく投稿（2023年度X利用者アンケートより分析）、ANA公式Xのリポスト投稿などにより、協会全体目標である「情報発信の強化」に大きく貢献した。

- 他館連携

図書館総合展（来場者数12,786名）でのパネルやリーフレットによる航空図書館紹介に加え、新たな認知度向上の機会創出として、各公共図書館・資料館・専門図書館等にリーフレットの設置依頼をし、新規来館者に繋がった。また、港区基幹図書館である三田図書館での航空図書館企画展示を実施（2024年12月～3月）し、累計79,244名の来場者数となった。

(4) 利用者層の拡大

新規利用者数は990名（前年度比7.6%増）であった。その中でも特に伸び率の高かった層として、20代が前年度比3.4%増、30代は16.5%増となった。50代以上の伸び率は例年並みだったことから、新規層、またターゲット層に効果的なアプローチが出来た。

(5) 持続可能な運営（交流、地域貢献など）

・ 交流

図書館業界全体の持続可能な運営に向けて、港区教育委員会、港区公共図書館（6館）、専門図書館（12館）と、今後の連携について意見交換を実施した。また、航空科学博物館、みどりの図書館、成田市立図書館、JAXA本社図書館、東洋英和女学院大学中・高校図書室、國學院大學まちづくり学部ライブラリとは、当館資料寄贈や連携に向けての意見交換の場を設定した。

・ 地域貢献

図書館振興財団主催「図書館を使った調べる学習コンクール」へ港区協力館として、港区教育委員を通じ区内の小・中学生への航空図書館利用案内の実施と、図書館を利用した学習機会を提供した。

(6) 利用状況（令和6年度実績）

項 目		年度計	月平均	1日平均	年度計 前年度比	年度計 令和元年度比 (コロナ前)
開館日数（日）		233	19.4	-	100.9	106.9
入館者数（人）		1,786	148.8	7.7	101.2	119.2
貸出登録証発行数（件）		22	1.8	0.1	71.0	88.0
内訳 (件)	一般	14	1.2	0.1	70.0	70.0
	大学・短大・専門学生	4	0.3	0.0	57.1	80.0
	高校性	0	0	0.0	-	-
	小・中学生	4	0.3	0.0	200.0	-
貸出利用者数（人）		106	8.8	0.5	84.8	59.2
貸出冊数（冊）		263	21.9	1.1	92.3	56.4
複写利用者数（人）		232	19.3	1.0	83.8	59.3
資料照会・利用案内件数（件）		239	19.9	1.0	89.5	54.1

(7) 資料受入状況（令和6年度の実績）

資料	購入	寄贈	総計	前年度比
	計	計		
図書（冊）	12	89	101	77.7
雑誌（冊）	255	2079	2334	383.9

3. 機関誌・図書の刊行

機関誌「航空と文化」冊子版を航空宇宙に広くテーマを求めて年2回発行した。冊子版に掲載した記事を「航空と文化」WEB版に順次転載し当協会ホームページで公開している。

(1) 冊子版「航空と文化」

No.129 (1,600部)、No.130 (1,600部)を発行した。

「航空と文化」No.129 夏季号 7月15日発行

「航空と文化」No.130 新春号 1月15日発行

(2) WEB版「航空と文化」

WEB「航空と文化」の更新は実施しなかった。

(3) 「数字でみる航空」

2024版を国土交通省航空局の監修を受けて9月30日に発行した。

(1)の概要は、別表1(付1頁)の通り。

II. 航空遺産継承事業(航空遺産継承基金事務局業務)

航空遺産の調査、寄贈資料の整理・修復、資料の貸出などの活動を実施した。

1. 航空遺産継承活動の社会的認識の向上

新たに9名および復活1名の個人賛助員の賛同をいただき、個人賛助員数は10名増(法人は前年度と同じ)となった。

(1) 賛助員

令和6年度賛助員の状況は以下の通り。

特別賛助員(累計)11名、1団体

法人賛助員 34口(9法人)

個人賛助員 42口(39名)

(2) 特別顧問

三輪 嘉六 元独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館館長

(3) 専門委員

飯野 明 都立産業技術高等専門学校 名誉教授

北河 大次郎 文化庁 文化財調査官

鈴木 一義 元独立行政法人国立科学博物館 産業技術史資料情報センター長、
当協会評議員

柳沢 光二 航空史家

横山 晋太郎 元かかみがはら航空宇宙博物館参事、元独立行政法人国立文化財機構
東京文化財研究所客員研究員

2. 資料の保存継承

(1) 散逸の恐れのある資料について保存継承のため以下の寄贈を受けた。

1) 町田哲哉氏から富士重工作成の『構造設計大要』などを寄贈いただいた

- 2) 山田圭一氏から1960年代～1980年代のエアラインのルートマップなどを寄贈いただいた。
 - 3) 飯田允幸氏から航法計算盤2個の寄贈を受けた。
 - 4) 深田浩氏から御尊父の戦前のグライダー活動の写真を収めたアルバムを寄贈いただいた。
 - 5) 故・幸尾治郎氏（STOL実験機「飛鳥」の開発本部長や航空事故調査委員会長などを歴任）の資料の寄贈を受けた。
 - 6) 小山智子様から、御尊父の茂呂五六の資料を寄贈いただいた。
- (2) 資料保存用スペースの確保
- 東京文化財研究所にて整理・調査した資料並びに寄贈資料の保管及び整理のため、総務室の協力を得て航空会館内の旧機械室（地下1階、2階、3階）を整備して倉庫兼作業室とし、さらに埼玉県深谷市に新たに倉庫スペースを賃借し資料の保管を実施した。
- (3) 航空資料保存に関する研究
- 航空科学博物館（千葉県山武郡芝山町）が主催した「YS-11試作1号機の永続的保存に関する有識者会議」に委員の1人として参加し、保存のための調査を行い、中間答申（案）の取り纏めに協力した。

3. 資料の調査研究

- (1) 寄贈資料などについて専門家の協力を得ながら調査研究を進めた。
- 1) 航空自衛隊実験航空団で航空機開発に携わった町田哲也氏に、T-1練習機、C-1輸送機の開発についてインタビューを行った。
 - 2) 愛媛県愛南町の紫電改の専門委員による調査を実施した。
 - 3) 岐阜県富加町の松井酒造に保存されている古い航空機部品（サルムソン2A2の水平尾翼）の専門委員による調査を実施した。
 - 4) 岐阜かかみがはら航空宇宙博物館に展示されている低騒音STOL実験機「飛鳥」などの専門委員による調査を実施した。
 - 5) 南九州市が行った知覧特攻平和会館の四式戦闘機「疾風」の調査に参加した。

4. 資料の公開

- (1) 協会ホームページの航空遺産ギャラリーで「今月の一枚」として計12枚の写真を紹介した。
- (2) 三式戦闘機「飛燕」を岐阜かかみがはら航空宇宙博物館に継続して貸出した。
- (3) 1階ロビーの展示ケースの航空遺産の展示を行った。4月～9月はジャイロ計器と徳川好敏大尉のパイロットライセンスの実物大写真、10月～3月は航法計算盤（フライトコンピュータ）などを展示した。
- (4) Webのギャラリーに陸軍航空本部『航空写真帖』を追加した。
- (5) 以下の写真資料を貸し出した。
- 1) CBCテレビにバラエティ番組「道との遭遇」用として零戦の写真1枚を貸し出した。
 - 2) 三井住友信託銀行の顧客向け広報誌『発見上手』用として、アンリ・ファルマンの写真1枚を貸し出した。
 - 3) TBSテレビにニュース番組用として航空図書館の貴重図書4冊を航空遺産に準じて貸し出した。

- 4) 長島宏行氏に国立科学博物館主催「大学生のための科学技術史講座」用として試作特殊攻撃機「橘花」など21枚を貸し出した。
- 5) (株)シクセンスに所沢航空発祥記念館の企画展用として、気球などの写真2枚を貸し出した。
- 6) 横川裕一氏に出版用としてサルムソン2A2の写真1枚を貸し出した。
- 7) 瑞穂町郷土資料館に企画展「開設から85年 多摩陸軍飛行場」用として飛燕などの写真8枚を貸し出した。
- 8) 四日市市立博物館に特別陳列「四日市の生んだ「日本のライト兄弟」玉井兄弟展」用として玉井清太郎などの写真3枚を貸し出した。
- 9) 小金井市立はげの森美術館に長岡外史の写真2枚を貸し出した。

5. その他

- (1) 11月20日および2月6日に開催された「赤い翼プロジェクト」の実行委員会に参加した。
- (2) 4月9日、航空ジャーナリスト協会に同会の企画展用としてポスター12枚を貸し出した。
- (3) 寄贈資料に含まれていた丸山定夫（戦前・戦中の新劇俳優）の資料を早稲田大学演劇博物館に譲渡した。
- (4) 5月12日、日本経済新聞のNikkei the STYLE（日曜版）に「翼の記憶、未来へ」と題した特集が掲載され、当協会の航空遺産継承活動も紹介された。
- (5) 7月21日に荏田職員が三康図書館で「新聞記事で辿る航空黎明期」と題して講演した。
- (6) 四日市市立博物館が玉井清太郎（四日市出身の大正時代の飛行家）ゆかりの約100年前の飛行機のプロペラ3本を受贈するあたり、その仲介をした。
- (7) 国立映像アーカイブの「大正十三年十一月二十八日 皇太子殿下行啓ノ光榮ヲ得タル霞ヶ浦海軍航空隊卒業式及 各種飛行作業台覧ノ実況」という映像の文献として、基金ギャラリーの写真アルバムが紹介された。
- (8) ベル&ロス（フランスの高級時計会社）が赤い翼プロジェクトに関連したモデルを作成するにあたり、同社日本法人担当者と時計雑誌「WATCHNAVI」の担当者が6階エレベータホールに展示しているコードロン・シムーンのラダーの取材に来訪した。
- (9) 11月15日、岩戸晶子氏の講演会場に、戦前のグライダー大会の記念陶製プレートと委員章を展示した。同講演後にパネルディスカッションにおいて航空遺産を含む近代の文化財の保存について意見交換を行った。
- (10) 寄贈資料に含まれていた戦前/戦中の「アルボース石鹼」のパッケージを、(株)アルボース（大阪市）に寄贈した。
- (11) 船の科学館の笹川良一に関する展示のための、笹川氏と共に写真に写っている飛行機についての情報提供を行った。
- (12) 2月15日、荏田職員が武蔵野の森公園サービスセンターと「調布飛行場掩体壕を保存する会」の共催の公開学習会で、同センターに展示されているプロペラをテーマに講演した。
- (13) あいち航空ミュージアムが開催した航空系博物館連携プロジェクト「二宮忠八パネル展」関連講演会「大空への挑戦者たち」に対して後援の名義使用を認めた。

Ⅲ. 航空スポーツ普及・振興事業

1. 概況

航空スポーツ活動に関しては、各航空スポーツ統括団体を中心に世界選手権出場など活発な航空スポーツ活動（競技会、イベント等）が展開されたが、一方で、航空スポーツを取り巻く環境は刻々と変化しており、気球法制化、ドローンとの空域棲み分け、e スポーツへの対応、高齢化による会員数減少など、解決すべき多くの課題を抱えながら、航空スポーツが現状どおり永続的に発展していけるよう環境整備に注力した1年であった。

このような環境下における主な取り組みは以下のとおり。

(1) 航空スポーツの啓発普及活動

今年度下期から「こども模型飛行機教室」の運営が日本航空協会へ移管され、新体制での運営初年度を迎えたが、日本模型航空連盟の協力の下、従来どおりのパフォーマンスを展開することができた。年間計画どおりに「こども模型飛行機教室」「航空スポーツ教室」を開催し、物づくりの楽しさや学びの場を多く提供し、次世代の航空スポーツファンといえる青少年に対し積極的なアプローチを実施した。特に、年間2回の当協会直営となる東京都臨海広域防災公園でのアウトドアイベント「空を見上げて」、三田図書館でのインドアイベント「航空スポーツ教室 in 三田図書館」は統括スポーツ団体との連携を図ることができ重要な位置付けとなる活動であり、次年度以降も進化させながら展開していく予定である。

(2) 青少年教育プロジェクト

前段でも述べたが、将来の航空スポーツ競技者となる青少年に対して、「こども模型飛行機教室」「航空スポーツ教室」を通じてアプローチを展開したが、単発でのイベントとなるため、参加していただけた青少年に対するその後のフォローの充実が課題と認識している。

また、「青少年航空宇宙絵画国際コンテスト」では588点の応募をいただき、協会会長賞を含む9作品をFAI主催の国際コンテストに日本代表作品としてエントリーし、10～13歳のクラスで世界1位、14～17歳のクラスで世界2位の座を獲得するなど優秀な成績を収めた。航空スポーツの明るい未来のためにも、高齢化に伴い航空スポーツ競技者、愛好者、各団体会員数の減少に歯止めが効かない状況を食い止めるという至上命題を背負い、次年度以降も青少年への啓蒙活動に全力で取り組みたい。

(3) 国内関連団体への対応

航空スポーツ活動の環境整備と拡充の観点で取り組んできたドローン情報基盤システム(DIPS2.0)を介したドローン飛行と共存共栄の空域確保への取り組みは、最終的な調整が電話やメールで行われるなど非効率であるという課題があり、現在はドローンの多頻度・高密度な運航に対応するためのドローン運航管理システム(UTM)の段階的導入へと方向転換することが決定したことから、引き続き注視の上、各統括スポーツ団体とともに適切に対応していくものとする。

日本オリンピック委員会中央競技団体向けガバナンスコードに準拠し定めた航空スポーツ事業のガバナンスコードについては、2027年7月の最終適合審査に臨むべく更なる深化を図り、本邦航空スポーツ界の信頼性向上に努める。安全面については、今年度も残念ながら航空スポーツ重大事故が発生した。なお、当協会が把握している重大事故（国内外で死亡を伴う）件数は4件（いずれもパラグライダー）であった。引き続き各団体が開催する安全

講習会視察など、安全意識向上を促す活動を更に活発化して各航空スポーツ統括団体に対し事故撲滅を働きかけて行くが、レッグベルトの締め忘れなど明らかに未然に防ぐことができた死亡事故が二度と発生しないよう、引き続き安全意識の醸成・徹底を図っていく。

(4) 国際関連団体への対応

第118回FAI総会（2024年11月27～28日）は、石油依存度の低下と経済活動の多様化を目指す「ビジョン2030」を掲げ、著しい経済成長を続けるサウジアラビア首都リヤドにおいて中東初の開催となった。継続的なFAI方針「バランスの取れた予算の構築、会費収入と一般管理費の均衡の下、会員サービスの提供」に基づき会員や各航空スポーツ委員会の協力を得て順調な運営が行われていることから、昨年は焦点となった会費値上げも今回は1.5%で落ち着くなど、議事は粛々と進められた。なお、今回の焦点であった会長および執行役員の改選については、アメリカ航空協会会長を歴任したGreg PRINCIPATOが、戦略的ビジョンと使命の明確化など、FAI改革のコミットメントを掲げ、第37代のFAI会長に選ばれた。また、執行役員については、香港のAndy CHAUがアジアを代表して再選を目指したが落選。カナダを除く全ての執行役員がヨーロッパ諸国で占められる結果となった。

尚、一昨年、執行役員の任を辞したアジア地域NAC（National Air Sport Control）協議体であるAFA（Air Sport Federation of Asia）の活動については、日本を含む加盟国でAndy CHAUのFAI執行役員再選の協力を行ったが、その他に顕著な活動等は無かった。

航空スポーツ団体の活動状況は、別表2（付2頁）の通り。

2. 国際航空連盟(FAI)に関する活動

(1) 第118回FAI総会が開催され、日本代表として当協会より1名が出席した。

会 議 名	期 間	開 催 地	出 席 者
第118回 総会	2024年11月27日 ～28日	リヤド (サウジアラビア)	松崎 真也

(2) 種目別国際エア・スポーツ委員会、技術委員会に関する活動

各委員会の開催期間、開催地及び出席者は下表の通り。

会 議 名	期 間	開 催 地	出 席 者
国際マイクロライト・パラモーター委員会	2025年2月20日 ～22日	チェコ共和国 (プラハ)	(NPO)日本パラモーター協会 五十嵐 亮
国際ハング・パラグライディング委員会	2025年3月6日 ～9日	モンテネグロ (ブドヴァ)	(公社)日本ハング・パラグライディング連盟 岡 芳樹 牟田園 明
国際滑空委員会	2025年3月7日 ～8日	スロベニア (ツェリエ)	(公社)日本滑空協会 佐志田 伸夫
国際気球委員会	2025年3月12日 ～15日	インド (ニューデリー)	(一社)日本気球連盟 副島 弘壮

(3) A F A (AFA: Air Sport Federation of Asia)総会、執行役員会議

本文「(4) 国際関連団体への対応」に記載のとおり当団体の会議参加は無い。

3. 選手権等

2024年4月～2025年3月末までに実施された日本選手権は、熱気球、模型航空機、ハング・パラグライダー、マイクロの4種目、計23サブクラスを当協会が公認し、17サブクラスが成立した。

また、日本で開催されたFAI国際競技会（カテゴリーII）は、ハング・パラグライダーの1種目、21サブクラスがFAIより公認され、19サブクラスが成立した。

海外で開催されたFAI国際競技会（世界選手権や大陸選手権）へは、熱気球、アエロバティックス、滑空機、模型航空機、ハング・パラグライダー、パラモーターの6種目、19サブクラスに選手団を派遣した。

各種競技会の実績は、別表3（付3～7頁）の通り。

4. 記録の公認等

2024年4月～2025年3月末までに当協会が認定した日本記録は1件、なお、FAIより認定された国際記録はなかった。

別表4（付8～9頁）を参照。

5. 航空スポーツ教室、こども模型飛行機教室「スカイ・キッズ・プログラム」の開催

子供達に航空スポーツを安全に楽しむ機会を提供することにより、空に対する憧れや科学的な目でアプローチする姿勢、自然に親しむ心を醸成することを目的としたこれらの教室については以下の通り開催した。

(1) 航空スポーツ教室

計画をしていた以下の教室を開催した。

① 通常教室

- ・三重県尾鷲市立尾鷲小学校（2024年11月23日）
- ・福岡県遠賀総合運動公園（2025年1月25日）

② 都心プロモーション教室

- ・東京臨海広域防災公園（2024年8月3日、4日）「空を見上げて」共催

なお、3月に計画をしていた三田図書館との地域連携イベント教室については、会場の予約が年度内に出来なかったため、来年度5月に開催することとなった。

(2) こども模型飛行機教室（こども模型飛行機教室全国推進委員会共催）

今後も安定した教室事業の継続を目的とし、20年間当該事業を運営してきた「こども模型飛行機教室全国推進委員会」を上期で解散し、当協会事業に移管となった。また、今年度の開催目標であった10回の教室を開催地並びに日本模型航空連盟等の協力で滞りなく開催した。

6. 青少年航空宇宙絵画国際コンテスト

(1) 2024青少年航空宇宙絵画国際コンテスト

国際航空連盟（FAI）が主催する青少年を対象とした国際絵画コンテスト「2024FAIヤングアーティスト コンテスト」へ、今年も国内予選で入賞した下表の9点を日本代表作品として出展した。

優秀賞

クラス	氏 名	住 所	題 名
6～9歳 (年少)	茶谷 百	広島県	世界が平和でひとつの輪
	本山 智基	広島県	ねつ気球で世界を平和に
	林 実乃理	神奈川県	輪になって友に
10～13歳 (年中)	勅使川原 怜	東京都	大空の絆
	高橋 結衣	大阪府	スカイダイビングでいろんな人と交流
	鈴木 瑚都	神奈川県	フランスのパリにおりたった
14～17歳 (年長)	小野 絢奏	宮崎県	はばたく想いと
	山口 真結菜	愛知県	夢を背負う旅
	西澤 周香	群馬県	ツナグ世界

※2024FAI ヤング アーティスト コンテストでは、10～13 歳（年中）クラス勅使川原怜さんが世界1位、14～17 歳（年長）クラス西澤周香さんが世界2位を受賞した。

※「青少年航空宇宙絵画国際コンテスト日本航空協会会長賞」は、国内審査において特に高い評価を得た鈴木瑚都さんに授与した。

また、上記国内入賞作品は8月港区三田図書館、10月あいち航空ミュージアムにて展示を行った。

（2） 2025青少年航空宇宙絵画国際コンテスト

「翼を持つ女性たち（原題：Women with Wings）」というテーマの下、9月に国内コンテストの募集を開始した。募集開始に伴い、チラシ3千枚の配布や無料公募サイト3社への情報掲載を行った。

7. 主催・後援事業

主催・後援事業等は、別表5（付10～11頁）の通り。

IV. 表彰・弔慰援護事業

1. 表彰

（1）令和6年度表彰

表彰委員会を6月11日に開催し、令和6年度の日本航空協会賞各賞の受賞者を決定した。9月20日に日本航空協会表彰式と国際航空連盟賞の伝達式ならびに記念祝賀会を航空会館で開催した。

1) 日本航空協会賞

種 類	受 賞 者 (敬称略)
航 空 亀 齢 賞	五十嵐 修 ・ 大慈彌 省三 ・ 阪部 寛
航 空 功 績 賞	伊藤 博行
航 空 特 別 賞	北陸名鉄開発株式会社能登空港事業部 JAXA H3プロジェクトチーム
空 の 夢 賞	JAXA 宇宙科学研究所 SLIMプロジェクトチーム

2) 国際航空連盟(F A I)賞

種 類	受 賞 者 (敬称略)
ポール ティサンディエ ディプロマ	中森 良輝
FAIエア・スポーツ・メダル	菅原 博治 ・ 林 和成 ・ 滝野 浩

協会賞及びF A I 賞の詳細は、別表 6 (付11～13頁) の通り。

記録の詳細は、別表 4 の通り。

- (2) 表彰事業の活性化を目的とした表彰対象の拡大を受けて、表彰委員からの個別意見聴取、表彰委員及び推薦団体の新規委嘱、関係団体との連携を一層強化するための取り組みなどの活動を行った。

2. 弔慰援護

航空関係物故者5名について航空育英会を継続実施した。

今年度の給付奨学金総額は852千円、受給奨学生の人数は5名で、その内訳は、高校生2名、大学生3名であった。

V. 航空交流事業

1. 新年賀詞交歓会

当協会が世話役の代表となって毎年開催する恒例の賀詞交歓会は、参加人数を制限して令和7年1月7日に開催した。来賓に、吉井章国土交通大臣政務官、水嶋智国土交通審議官、寺田吉道国土交通審議官、村田茂樹大臣官房長、平岡成哲航空局長を迎え、航空関係者335名が出席し、盛大に行われた。

2. 航空神社祭事

令和6年9月20日に航空会館9階において、航空各社代表、祭神である航空殉職者・功労者の遺族の参列を得て、靖国神社神官の出張奉仕により航空神社平安祈願例大祭を斎行した。

令和7年1月7日には、協会役職員参列のもと新年祭を執り行った。

近年お守りの種類を増やしたことや御朱印を用意したことで授与数が増加傾向となっている。

また、当協会の X アカウントで発信した航空神社に関する投稿を ANA 社にリポストして頂き、6.5 万回再生と多くの方に周知されることとなった。

VI. 全国地域航空システム推進協議会事務局業務

全国地域航空システム推進協議会から受託した事務局業務を構成する、研修会や地域航空フォーラムの開催などの協議会事業の窓口及び調整業務、総会・理事会・幹事会などの会議の事務処理、会費の徴収事務、資産管理及び会計事務、これらに付随する庶務業務の各業務を適切に遂行し、全国地域航空システム推進協議会からの付託に応えた。

VII. 「空の日」・「空の旬間」実行委員会事務局業務

以下の通年事業の事務局業務を実施した。

(1) 空の日記念式典

第72回「空の日」航空関係功労者国土交通大臣表彰式（受賞者40名）を国土交通省共用大会議室にて開催した。

(2) 広報活動

Facebook、協賛各社・団体保有の機関誌等紙面への空の日に関する記事掲載（無償）、航空教室等で空の事業の周知・広報活動に努めた。

(3) 絵画コンテストの支援

応募チラシの一部補助に加え、国際コンテストへの入賞者2名に複製パネルを製作し贈呈した。

(4) 地方事業の支援

全国の空港等で開催される空の日イベントに、事業費の一部を補助した。

(5) 啓発事業の支援

青少年を対象とする航空教室や、航空スポーツ分野の安全に関する講演会、講習会等の取り組みなどに対して事業費の一部を支援した。

(6) その他

関東近郊の中学生10名を対象とし、ANA Blue Base、JAL羽田格納庫・JAL SKY MUSEUM 等の羽田空港周辺航空関連施設見学を実施した。

VIII. 国際線発着調整事務局業務

平成20年1月、我が国の混雑空港である成田国際空港及び関西国際空港の国際線発着調整業務が日本航空協会に委嘱され、平成22年2月、新たに東京国際空港（羽田）における国際線・国内線発着調整業務が追加委嘱された。加えて、平成24年8月、新千歳空港における国際線・国内線発着調整業務が追加となり、更には平成27年8月、福岡空港における国際線・国内線発着調整業務が追加委嘱された。令和5年度においては、成田、関西、羽田、新千歳、福岡空港の5混雑空港における国際線・国内線に関する冬ダイヤ、夏ダイヤの調整作業を中心として、I A T A（国際航空運送協会）等との会議への貢献に加え、事務局の中立性、公平性、透明性等を更に推進するため下記に示すような業務を実施した。

1. 2024年冬ダイヤ、2025年夏ダイヤの調整

成田国際空港、関西国際空港、東京国際空港（羽田）、新千歳空港及び福岡空港の国際線・国内線スケジュールに関し、I A T A、A C I（Airport Council International）及びW W A C G（Worldwide Airport Coordinators Group）の定めるW A S G（Worldwide Airport Slot Guidelines）及び当該空港のローカル・ガイドラインに基づき、下記の調整を日本乗り入れ航空会社（約140社）と実施した。

（1） 2024年冬ダイヤ（10.27,2024－3.29,2025）の調整

1） I A T A S C（Slot Conference）事前調整

2024年冬ダイヤの調整に当たり、ロシア空域制約やグランドハンドリング人員不足の影響等による欠航発生状況を踏まえて前年同期の運航実績を各航空会社へ送付（4月中旬）、運航実績の相互確認を行い、各航空会社からの希望スケジュールの提出（5月上旬）を受け、希望スケジュールを規制値内に収めるよう調整し、内外の航空会社に対して一次回答（5月下旬）を行った。

2） I A T A S C（Slot Conference）154回会議への参加

S C154回会議がコロンビア・ボゴタにて6月11日～13日に開催され、日本乗り入れ航空会社と対面方式で個別面談を行い2024年冬ダイヤにおけるスケジュール調整を行った。

（2） 第14回空港発着調整委員会の開催

平成22年度に、レベル3の混雑空港（成田、羽田空港）を対象として、空港当局、管制機関、参入航空会社等で構成される首都圏空港発着調整委員会が設置された。更に、平成27年8月、福岡空港がレベル3の混雑空港として追加されたことから、委員会の名称・規約の変更を行い「空港発着調整委員会」と名称を変更して再スタートすることとなった。令和3年度からは、同年3月にレベル3の混雑空港に指定された関西空港を対象に追加し、空港発着調整委員会を開催している。

2025年夏ダイヤに向けて、第14回空港発着調整委員会を9月26日、航空会館7階大会議室における実地開催とオンライン方式と併用して開催した。主たる議題は、2025年夏ダイヤに向けた調整方針（規制値）、成田国際空港、東京国際空港（羽田）、福岡空港、関西国際空港の各空港に関する運用状況、空港施設整備計画等の報告であった。

また、上記委員会に合わせて、第5回スロットモニタリング委員会を開催した。同委員会は、レベル2の混雑空港（新千歳空港）も含めた5空港が対象となり、前年度運航実績についてスロット監視の状況、スロットのミスユース等について説明がなされた。

(3) 2025年夏ダイヤ(3.30-10.25,2025)の調整

1) IATA SC(Slot Conference) 事前調整

2025年夏ダイヤの調整に当たり、ロシア空域制約、グランドハンドリング人員不足及びエンジン不具合の影響等による欠航発生状況を踏まえ前年同期の運航実績を各航空会社へ送付(9月中旬)、運航実績の相互確認を行い、各航空会社からの希望スケジュールの提出(10月上旬)を受け、希望スケジュールを規制値内に収めるよう調整し、内外の航空会社に対して一次回答(11月上旬)を行った。

2) IATA SC(Slot Conference) 155回会議への参加

SC155回会議がシンガポールにて11月19日~22日の間開催され、日本乗り入れ航空会社と対面方式で個別面談を行い2025年夏ダイヤにおけるスケジュール調整を行った。

2. WWACG 会議、WASB 会議への貢献

発着調整事務局の国際的組織であるWWACG会議のボード・メンバー(7ヶ国)として、IATA、ACI及びWWACGの3者協同で設立したWASB会議(Worldwide Airport Slot Board:航空会社7社、空港会社7社、コーディネーター7機関の21名で構成される合同会議)に参加し、日本及びアジア太平洋地域の代表としての貢献を行った。

この会議は、スケジュール調整に関する問題点の抽出、問題の解決に向けた議論、得られた解決案を反映するため世界共通のガイドラインであるWASGの規則改定の実施等について幅広く議論がなされるが、これら会議に日本及びアジア太平洋地域の代表として参加し各種提言を行った。

なお、対面会議としては、以下の会議に参加した。

(1) WWACG会議、WASB会議への参加(6月)

IATA SC154回会議に先立ち、WWACGのボード会議及び全体会議、並びにWASB会議が6月9日及び10日に、コロンビア・ボゴタにて開催され、これまでに合意した優先検討課題を中心に問題点解決に向けた議論を行った。

(2) WWACG会議、WASB会議への参加(11月)

IATA SC155回会議に先立ち、WWACGのボード会議及び全体会議、並びにWASB会議が11月17日及び18日に、シンガポールにて開催され、前回に引き続き問題点解決に向けた議論を行った。

(3) WWACG会議、WASB会議への参加(3月)

WWACGのボード会議が3月5日に、WASB会議が6日に、米国ワシントンDCにて開催され、前回に引き続き問題点解決に向けた議論を行った。

3. APACA(アジア太平洋発着調整事務局連合)会議の開催

日本・オーストラリアが中心となってアジア太平洋地域における発着調整事務局の連合設立の働きかけを行ない、SC127会議(2010年開催)において正式にAsia/Pacific Airport Coordinators Association(APACA)が発足した。このAPACAの主目的は、アジア太平洋地域の各コーディネーターが抱える問題点の共有、解決策の模索、IATA/ACI/WWACGの定めるガイドラインの啓蒙等であり、発着調整組織の国際的組織であるWWACGの下部機関として活動することである。

(1) A P A C A / 27 会議

S C 154 会議期間中の6月11日、第27回 A P A C A 会議を開催した。第27回会議では、A P A C A 議長等の選挙結果、W A S B 及び W W A C G の活動状況、メンバー各国における運航・課題対応状況等について議論・意見交換を行った。

(2) A P A C A / 28 会議

S C 155 会議期間中の11月19日、第28回 A P A C A 会議を開催した。第28回会議では、W A S B 及び W W A C G の活動状況、メンバー各国における運航・課題対応状況等について議論・意見交換を行った。

4. 国際線発着調整事務局「運営協議会」

従来、国際線発着調整事務局を資金面、組織面で支援してきたのは、日本航空(株) (J A L)、全日本空輸(株) (A N A)、日本貨物航空(株) (N C A)、成田国際空港(株)、関西エアポート(株)の5社であったが、事務局の更なる独立性、中立性、公平性を確保するため、全本邦航空会社、全混雑空港からの支援を受容できるような体制強化を図った。

平成28年12月、本邦航空会社16社、空港会社等8社から成る「国際線発着調整事務局運営協議会」を設立し、資金的支援、人的支援を受けることとした。本年度においては、第16回、第17回運営協議会を開催した。

(1) 第16回国際線発着調整事務局運営協議会の開催

第16回国際線発着調整事務局運営協議会を7月17日に、航空会館9階会議室における実地開催とオンライン方式を併用して開催した。この会合において、①令和5年度決算報告、②令和5年度事業報告、③令和6年度予算執行状況・業務体制報告、④2024年冬期スケジュールの調整状況報告、⑤ I A T A 等の動向等の議題に関し議論し承認を得た。

(2) 第17回国際線発着調整事務局運営協議会の開催

第17回国際線発着調整事務局運営協議会を12月11日に、航空会館9階会議室における実地開催とオンライン方式を併用して開催した。この会合において、①令和6年度第1～第3四半期予算執行状況報告、②令和7年度業務体制(案)、③令和7年度予算(案)、④令和7年度運営資金分担(案)、⑤2025年夏期スケジュールの調整状況報告、⑥ I A T A の動向等の議題について議論し承認を得た。

5. 国際線発着調整事務局の中立性等の推進

W A S G には、国際線発着調整事務局の中立性、公平性、透明性等の確保に関するガイドラインが定められているが、当事務局として更にこれらを推進するため、下記に示すような取り組みを行った。

(1) 第16回国際線発着調整事務局に関する運営協議会を開催した。(7月)

(2) 第14回空港発着調整委員会及び第5回スロットモニタリング委員会を開催した。(9月)

(3) 第17回国際線発着調整事務局に関する運営協議会を開催し、令和6年度の予算案を可決した。

(12月)

(4) 航空保安大学校へ講師を派遣し、これから全国各地に赴任していく航空管制運航情報官を対象として、発着調整業務の説明を行った。(2月)

6. 日本乗り入れ航空会社数

現在、国際線発着調整事務局において、スケジュール調整を行っている日本乗り入れ航空会社数は、約 140 社であり空港毎に下表のとおりである。

地 域	成田国際空港	東京国際空港 (羽田)	関西国際空港	新千歳空港	福岡空港
日本	9	8	6	9	14
北米 (カナダ、メキシコ含む)	11	5	5	0	2
欧州	13	8	7	0	1
アジア・オセアニア、南太平洋	66	26	64	33	43
その他 (中東、アフリカ等)	7	5	4	0	0
合 計	106	52	86	42	60

IX. 航空会館運用事業

1. 航空会館のテナント貸室事業

日頃寄せられるテナントからのご意見に対して、安全・衛生的、快適に利用出来るように日々のきめ細かな管理・運営に努め、1 年を通して貸室は満室となっている。

2. 貸会議室事業

令和 5 年度下期から 2 階のテナント化により貸会議室の対象面積は 25%減少したが、稼働率が向上し、会議室収入額が前年度を上回ることができた。

3. 建物、設備の維持管理

将来を見据え引き続き航空会館を使用できるよう、屋上防水工事及び外壁塗装工事を実施した。また 2027 年末に蛍光灯の生産が終了するため、建物内の照明を LED に変更した。

関連法規を順守し防災センターを通じて引き続き施設、設備のきめ細かな修理営繕を行い、建物、設備の良好な環境を維持した。

X. 航空クラブ

航空クラブは、航空宇宙関係者の交流啓発を目的として、昭和 53 (1978) 年に設立された。近年は会員数の減少により財政が厳しさを増していたことから、令和 5 年度より当協会の賛助員制度を改定し、賛助員制度と航空クラブを統合し新制度の下で航空クラブの運営を行っている。

航空クラブは、当協会の個人・法人賛助員と協会役職員で構成されこととなり、会員各位へのサービス等は現状を維持しつつ拡充を目指した。

令和 6 年度の活動としては、7 月に総会、特別講演会、懇親会を開催し、特別講演会は、帝京大学ラグビー部 前監督 岩出雅之様にご講演をいただいた。運営委員会は、2 回開催した。

1月恒例の新春卓話会は、国土交通省航空局長 平岡成哲様にご講演をいただいた。

また、12月に日本航空株式会社様のご協力を得て JAL グループ安全啓発センター及び工場見学(SKY MUSEUM)、3月に防衛省（市ヶ谷）の見学会を開催した。

同好会活動は、囲碁、書道、写真の三つの同好会が 航空会館の施設を利用して会員相互の親睦を深めた。機関紙「航空クラブニュース」は、講演内容が講師の希望により掲載できないこともあり、2023年5月号(No.142)を以って発行を中止した。

(1) 会員数

法人賛助員：36社／口数196口

航空クラブ会員登録済（22社） 235名

航空クラブ会員未登録（14社） 14名（代表者）

個人賛助員（航空遺産賛助員登録6名含む）：66名

役職員会員（協会役職員、評議員、監事、顧問、各委員）：67名

合計 382名（3/31現在）

(2) 運営委員会

	開催日	議題等
第1回	令和6年10月10日	令和6年度事業計画及び行事等について
第2回	令和7年 3月11日	令和6年度事業報告及び令和7年度の取り組みについて

(3) 総会

	開催日	議題等	参加数
総会	令和6年 7月 5日	<報告事項> ①令和5年度事業報告について ②令和6年度事業計画について ③運営委員の交代について	35名

(4) 活動（特別講演会等）

	開催日	テーマおよび講師	参加数
特別講演会	令和6年 7月 5日	常勝集団のプリンシプル ～自ら学び成長する人材が育つ心のマネジメント～ 帝京大学ラグビー部 前監督 岩出雅之氏	75名
新春卓話会	令和7年 1月10日	航空政策の現状と今後について 国土交通省 航空局長 平岡成哲氏	95名
見学会	令和6年12月13日	JALグループ安全啓発センター及び工場見学(SKY MUSEUM)	23名 事務局含
見学会	令和7年 3月 6日	防衛省（市ヶ谷）	19名 事務局含

* 会員サービスの一環として、文化情報室主催の定例講演会等の案内を先行して行った。

事業報告に係る附属明細書

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当する事項はありません。